

教科名	科目名	単位数	授業形態	系統	履修年次
国語	論理国語	文系2, 理系3	習熟度別	共通	3

教科書（発行所）	精選論理国語（東京書籍）
教科書以外の教材	1 音訓別—重要頻出漢字リアルマスター3300（尚文出版） 2 共通テスト+センター試験 国語過去問題（尚文出版）

目 標		1 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。 2 身近にある問題や社会の課題について自ら問いをたてて考える力を育成する。		
	学期	学習事項	学習内容	考查等
学習計画	1 学期	・読む【共同体】「社会の壊れるとき」 ・読む【社会】「サッカーにおける『資本主義の精神』」 ・書く【探究】「資料を活用して論述する」	・事例と引用を用いた論の展開を確かめながら主張を捉え、知性の意義について自分の考えを深める。 ・筆者の述べるサッカーと資本主義の関係について理解し、社会に対する見方を広げる。 ・資料を集めてさまざまな観点から整理し、テーマを吟味する。	課題考查 中間考查 期末考查
	2 学期	・読む【歴史】「原始社会像の真実」 ・共通テスト過去問題 R3年 第一日程「江戸の妖怪革命」 R3年 第二日程「ものの詩学」 R3年 第三日程「想像力の考古学」 R4年 本試験「食ることの哲学」 R4年 追試験「メディアの中の声」 R5年 本試験「視力の生命カーイメーの復権」 R5年 追試験「歴史の必然性について」	・時間的に異なる世界を題材とした評論を読み、社会の変遷を捉える見方を身につける。 ・日本の中世から近代にかけての「妖怪観」の変遷を論じた文章を理解する。 ・「食べる」と生命の関係について論じた二種類の文章を理解する。 ・ル・コルビュジエの建築における窓について異なる観点から論じた二種類の文章を理解する。	課題考查 中間考查 卒業考查
	3 学期	・共通テスト過去問題 R6年 本試験「サウンドとメディアの文化資源学」 R6年 追試験「江藤淳と少女フェミニズム的戦後」 R7年 本試験 R7年 追試験 進学希望者がいる国公立大学、私立大学、各種専門学校等の過去問題演習と解説。	・「音楽」や「芸術」という概念の自明性を問い直す文章を理解する。 ・観光における眼差しをテーマにした文章。「する」観光と「見る」観光、「見る」主体と「見られる」客体といった単純な二項対立にとどまらず、「する」と「見る」は不可分な「ともに踊る」関係であり、「見る」側が「見られる」側に反転することもある、といった二項対立的図式を踏み越えた内容を理解する。	
授業の受け方・学習に向けてのアドバイス等		1 提出物・宿題の期限を必ず守る。 2 授業中は必ず辞書を持参し、こまめに辞書を引く習慣をつけ、語彙力をつける。 3 ノートやプリントは板書をそのまま写すだけで終わらせず、説明を集中して聞き、メモを取ったり、アンダーラインを引いたりする習慣をつける。ノートが自分の参考書になるので、後から復習で活用できるように丁寧にまとめる。 4 1年間の学習を通して言語感覚を磨き、思考力や自ら進んで表現する姿勢を養おう。		

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
評価の方法	定期考查・課題確認テスト（小テスト）・課題レポート・日々題・週課題、授業に臨む姿勢や意欲及び自己評価を総合的に評価します。 いわゆるペーパーテストのみの点数がすべてではありません。身につけるべき能力をまんべんなく評価します。よって、テスト以外の普段の取り組みも評価の対象になります。知識・技能にもとづいた思考力・判断力・表現力も問うので、普段から、本質的な力を磨くようにしてください。		